

宮前フィルハーモニー交響楽団

創立25周年記念 第40回 定期演奏会

2016年6月12日(日)13:30開場 14:00開演 多摩市民館大ホール

指揮 **河地 良智**

管弦楽 **宮前フィルハーモニー交響楽団**

曲目 **スメタナ／連作交響詩「わが祖国」**

後援 川崎市 川崎市教育委員会 「音楽のまち・かわさき」推進協議会

協賛  川崎信用金庫



この5年、宮前フィルの2011～2015年

2015かわさき市民 第九コンサート

2015年12月20日(日)
ミュゼ川崎シンフォニーホール

指揮:今井治人
ソプラノ:大隅智佳子 アルト:増田弥生
テノール:青地英幸 バリトン:成田 眞
ロッキーニ/歌劇「セミラーミデ」序曲
ベートーヴェン/交響曲第9番(合唱付き)

第39回定期演奏会

2015年6月7日(日)
宮前市民館大ホール

指揮:田中一嘉 チェロ独奏:ペアンテ・ボーマン
ワーグナー/歌劇「リエンツィ」序曲
エルガー/チェロ協奏曲
ブラームス/交響曲第4番

第38回定期演奏会

2014年12月7日(日)
多摩市民館大ホール

指揮:河地良智
R・シュトラウス/交響詩「死と変容」
チャイコフスキー/交響曲第5番

第37回定期演奏会

2014年6月29日(日)
宮前市民館大ホール

指揮:久世武志
ベートーヴェン/レオノーレ序曲第3番
シューベルト/交響曲第7番「未完成」
メンデルスゾーン/交響曲第3番「スコットランド」

第36回定期演奏会

2013年12月8日(日)
多摩市民館大ホール

指揮:横島勝人 ナレーション:佐々木 彩
リスト/交響詩「前奏曲」(レ・プレリュード)
ドリーブ/バレエ音楽「コッペリア」～お話といっしょに～
ドヴォルザーク/交響曲第8番

交響楽祭2013 vol.1

2013年6月23日(日)
ミュゼ川崎シンフォニーホール

指揮:今井治人 ピアノ独奏:後藤正孝
フンパーディンク/「ヘンゼルとグレーテル」序曲
ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番
プロコフィエフ/「ロメオとジュリエット」より

第35回定期演奏会

2012年12月16日(日)
横浜みなとみらいホール

指揮:河地良智 オルガン:近藤 岳
ムソルグスキー(アシケナージ版)/組曲「展覧会の絵」
サン＝サーンス/交響曲第3番
ヘンデル/オンブラマイフ(OB・OG合同演奏)
エルガー/威風堂々(OB・OG合同演奏)

第34回定期演奏会

2012年5月27日(日)
多摩市民館大ホール

指揮:田中一嘉
バーンスタイン/キャンディード序曲
グノー/ファウスト
チャイコフスキー/交響曲第6番「悲愴」

かわさき市民第九2011

2011年12月25日(日)
テアトロ・ジーリオ・ショウワ

指揮:増井信貴
ソプラノ:大山亜紀子 アルト:山崎智世
テノール:小山陽二郎 バリトン:伊藤 純
ベートーヴェン/コロラン序曲
ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付き」

第33回定期演奏会

2011年9月11日(日)
宮前市民大ホール

指揮:今井治人
バイオリン独奏:天満敦子
(東日本大震災追悼のため)フォーレ/パヴァーヌ
ヘンデル/水上の音楽(ハーティ版)
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲
ベートーヴェン/交響曲第5番「運命」

創立20周年記念 第32回定期演奏会

【東日本大震災による影響で中止】
2011年4月23日(土)
ミュゼ川崎 シンフォニーホール

指揮:河地良智
ムソルグスキー(アシケナージ版)
/組曲「展覧会の絵」
サン＝サーンス/交響曲第3番

演奏曲目

スメタナ

連作交響詩「わが祖国」

第1曲 ヴィシェフラド(高い城)

第2曲 ヴルタヴァ(モルダウ)

第3曲 シャールカ

— 休憩 —

第4曲 ボヘミアの森と草原から

第5曲 ターボル

第6曲 ブラニーク

指揮

河地良智

管弦楽

宮前フィルハーモニー交響楽団

指揮●河地良智 Yoshinori Kawachi



桐朋学園大学指揮科に学び、斎藤秀雄、秋山和慶の両氏に師事。1973年、第3回民音指揮コンクール(現東京国際指揮コンクール)で奨励賞受賞。二期会オペラやN響定期公演などで、W.サヴァリッシュ氏、O.スウィトナー氏等の副指揮者を務める。

1983年より文化庁海外派遣員としてドイツ・バイエルン国立歌劇場でW.サヴァリッシュ氏、ミラノ・スカラ座でG.パタネ氏、バイロイト祝祭歌劇場でW.ワーグナー氏に、また、プラハ国立歌劇場でZ.

コシュラー氏等について積極的に歌劇場での研鑽を積む。それから現在まで、国内外の数多くの公演でオペラ、オーケストラをそれらを指揮し、それらの貢献により、北京市日中交流センター、オーストリア・ブルゲンランド州、諫早市より文化特別賞等を受ける。また、洗足学園音楽大学教授・学部長、及び同大学院長を経て、副学長、名誉教授と歴任。音楽の国際交流や、後進の指導にあたって



河地先生のお話から

私たちが長く指揮をお願いしている河地先生。技術面のご指導に加え、アマチュアオーケストラの役割、ということをよくお話ししてくださいます。それを私たちは、一つの道標として活動してきました。

今回、先生のお話で、印象に残っているもの。それは、「音楽、オーケストラは、"wachsen"(独：ヴァクセン)―成熟する」というお話。かつて、先生はブルックナーに取り組むのがよいとウィーンの先生からアドバイスいただいたとか。そのときはまだ、ブルックナーに取り組む時期ではないと考えていた。しかしその先生の意見は「そうではない。音楽は、種を植え、成熟させてゆくもの。」つまり、まずは種を植えるのだと。そして、一度の成果成功がゴールではなく、水を与え、陽を照らし、成長させていくこと。

私たちは、2004年に「わが祖国」の第1・2・6曲に取り組んでいました。20回記念の演奏会。この多摩市民館で、そして河地先生の指揮で。そのときに、ゼ



ひ次は全曲やろう!と先生が言ってくれたことを思い出します。思えば、当時蒔いた種を、少しは成長させられたのかなと考えます。そして、少し大きくなった苗は、これからさらに大きな樹となるよう、また水をやります。成熟した樹に育ててゆきます。

「わが祖国」を演奏するにあたり

さらに成長させるために、チェコの音楽にとって特別である曲を演奏するにあたり、どうしたらその国の人々の想いを表現できるか。先生は、ひとつの例を挙げてくださいました。それは、ロンドンで見た歌舞伎の話。歌舞伎では一番の見せどころに合の手が入り、場が一気に盛り上がる。これには呼び屋という専門の人がおり、絶妙のタイミングが重要である。ロンドンの公演では、イギリスの方が「なりたやー」と、完璧な合の手を入れ、驚いた。その方は勉強し、私たちに以上知っているし、知ることにはできる。つまり私達も同じ状況と考えられるのではないかなと。困難があっても、理解しようと学ぶ姿勢を持つ。国際的な価値観をもって想像することが大事だと。

こうすれば乗り越える、という答えを求めていましたが、「wachsen」と取組み続けることですね。



スメタナとわが祖国



2016年の今年も、スメタナの命日である5月12日、プラハの春国際音楽祭が幕を開けました。今年で71回を数えるこの音楽祭は、第二次世界大戦後、1946年にチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の50周年の記念公演として始まり、当時、常任指揮者だったクレーベリックの指揮により、「わが祖国」が演奏され、それ以降、オープニングを飾る曲として国歌の次に演奏され、チェコの人々にとって特別なこの音楽祭を彩り続けている曲なのです。

スメタナは、西洋音楽の作曲方法ではなく、祖国の音楽を生み出そうとし、チェコ音楽の祖と言われています。ドヴォルザークにも大きな影響を与えました。

彼は、42歳でチェコ仮劇場(国民劇場は建設中)の指揮者に就任。それは、楽団員や国民に広く歓迎されました。しかし一方で、前任の

指揮者や一部の批評家などが、新聞や雑誌を使って執拗にスメタナを攻撃し、彼は、耳鳴りや難聴、眩暈に悩まされました。治療の努力もむなしく、しまいに両耳は聴覚を失います。彼は両耳に綿を詰め、家のなかで完全な静寂に身を置かねばならませんでした。

絶望のなか、作曲が彼の生きる希望となりました。彼は、祖国を讃える曲を書き始めます。祖国の神話や歴史、自然や人々の暮らし、そして未来を描いた「わが祖国」です。日本ではもっぱら、合唱曲「モルダウ」が有名ですが、あの有名な旋律の前後にはチェコという国の長く深い物語があるのです。

耳を患いながら作曲した第1曲「ヴィシエフラド」のスコアには、「耳の病を患いながら」「第2曲「ヴァルタヴァ」には「まったくの聾になって」と書き入れられています。

祖国の神話を描いた

第1曲「ヴィシエフラド」

むかしむかし…とハーブが語り出し、物語は幕をあげます。ハーブは吟遊詩人。崖の上の城「ヴィシエフラド」に降りかかる運命―栄光と祝宴、戦闘、没落から廢墟となるまで―を語り始めます。

チェコの王たちの居城であったヴィシエフラドは、栄華を極め、音楽は一度、歓喜のクライマックスを迎えますが、それも東の間、戦いの中に城は崩壊。日本でいうところの「平家物語」。曲の最後には、かつての栄光を懐かしむようにまた、ハーブの語りがあり、余韻を残してあたりの風に消えてゆきます。この第1曲に、目に浮かぶほどに描かれたヴィシエフラドの栄枯盛衰を、ぜひ感じてください。



崖の上に見えるのがヴィシエフラド。ヴァルタヴァを見下ろすように立っています。

1. ヴルタヴァの最初の水源



フルートが川のせせらぎを、弦楽器のピチカートが飛び散る水滴を描きます。

2. ヴルタヴァの第二の水源

川のせせらぎにクラリネットが加わります。第二の水源です。二つの水源に始まったヴルタヴァは合流し、一つの川に。有名な旋律を第一ヴァイオリンが歌います。川のうねりを歌う他の弦楽器もぜひお聴きください。



3. 森 — 狩り

川の流れは森に入り、ホルンによって狩りの音楽が奏されます。同時に、川の流れはうねりを増し、ひとつの盛り上がりを見せます。徐々に川幅が増してゆきました。うねりは少しずつ緩やかになってゆきます。

6. 聖ヨハネの急流

朝が近づき、川の流れは速さを増してゆきました。川は加速し、急流に流れ落ちます。ピッコロの音色が加わり、水はしぶきをあげ流れてゆきます。

7. ヴルタヴァの大河の流れ



急流を越えて、川はプラハに流れ込み、川幅を増して大河に。曲調が明るくなります。

祖国の自然や人々の暮らし 第2曲「ヴルタヴァ」

ヴルタヴァは、ドイツ語で「モルダウ」。合唱曲で有名な、あの「モルダウ」です。スメタナは、国に豊かな実りをもたらすこの川を音楽で讃えたいと感じました。実際にヴルタヴァの源流にも足を運んでいます。川の誕生から、森を抜け、人々の民俗色豊かな暮らしの営みを見守りながらプラハの街を流れ進んでいく情景描写をお楽しみください。

4. 村の結婚式

森を抜けると、村の結婚式が行われていました。喜びに満ちた農民たちが集まって、踊りを踊っています。農作業の手をとめて、泥のついた靴を踏み鳴らし踊ります。農民たちの素朴な暮らしぶりを表しているようです。この民俗的色彩豊かなポルカは、この曲の聴きどころの一つです。



5. 月の光 — 水の精たちの踊り

賑やかな村を経て、辺りは徐々に夜の帳に包まれてゆきました。月明かりを浴びて、水面がキラキラと輝き、水の精たちが踊ります。フルートの輝きに乗せて、ホルンとトロンボーン、チューバが水の精となり踊ります。弦楽器は、辺りの静けさを弾き、大変描写が美しい場面です。



8. ヴィシェフラドのモチーフ

川が辿り着いたことを喜ぶように、第1曲ヴィシェフラドのモチーフが奏されます。そして、壮大なエルベ川へと流れ去ってゆきます。



祖国の神話

第3曲

「シャルルカ」

シャルルカとは、プラハの北にある谷の名前。そこには同時に、少女シャルルカの伝説があります。冒頭から嵐のように激情しているのは、この曲が、愛する男性に裏切られた彼女の屈辱、激怒、そして復讐の話だから。裏切られた彼女は、全ての男性への復讐を誓うのです。遠くから、騎士ツティラートと彼が率いる軍がやってきました。すると、木に縛られたシャルカがいるのですが、それは彼女の罠。彼女は、部下に命じて、自分を木に縛らせたのです。そんなことも知らず、彼女の美しさと、助けを求める細かい声に心を奪われ、ツティラートは彼女を自分の城に連れ帰り、宴を開きます。冒頭の女性の激情と、何も知らない男たちが警戒心なく現れる場面の音楽の温度差が面

白いほど明白。クラリネットの旋律は、男がほだされたシャルルカの嘆きです。シャルルカであるクラリネットと、ツティラートのチェロ。二重奏の掛け合いは、オペラを見ているようです。ツティラートはますますシャルカに惹かれてゆき、愛の告白をします。しかし彼女の心の内は残酷。このあとの惨劇が起こるとも知らず、音楽は本当に美しく…。

宴では皆、陽気にお酒を飲みかわしてま。しかし、宴のはずが、なぜか音楽はどんどん倦怠感を増してゆき…。実はシャルカ、お酒に薬を仕込んでいたのです。

男たちは皆、眠り込んでしまいました。場違いなファゴットの音色は、知らずに眠ってしまった男たちの大いびき。なんて憐れな男たち…。そこに、ホルンの音色が鳴り響きます。シャルカが、女性軍に合図を送ったのです。ときを待っていた女性軍。ホルンが2本で応えます。一気に城になだれ込み、眠る男たちに襲いかかって皆殺しに。音楽

プラハのヴィシェフラドの芝生広場には、シャルルカの像が建てられています。

は激高してゆき、トロンボーンによるツティラートの叫びが鳴り響くも、時すでに遅し。死を目前にした最後の叫びは女性軍にかき消され、シャルカにより殺されます。復讐を果たしたシャルカの勝利の雄たけびで、この物語は閉じます。

祖国の自然

第4曲

「ボヘミアの森と草原から」

音楽の冒頭から、ボヘミアの草原の風が一気に吹き抜けます。場面は一気にボヘミアの草原の中。スメタナは、「これは私がボヘミアの田園風景を眺めたとき心に呼び起こされる全ての感情を音で表現した曲」と書いています。木立、牧場、森、肥沃な大地、鳥のさえずり。祖国の自然の美しさが、余すところなく表現されています。

なお、ボヘミアとは、オーストリアの支配下にあったときのチェコスロバキア西部を指します。





祖国の歴史

第5曲「ターボル」

祖国の未来

第6曲「ブラニーク」

いずれも宗教戦争を描いたターボルとブラニーク。ふたつは続きの物語で、作曲家の指定で、続けて演奏されます。

曲は讚美歌から始まります。「汝ら神の戦士」というこの讚美歌は、1419年に始まるフス戦争の最中、フス派の教徒たちが歌った讚美歌です。フス教徒たちは、湖と丘と谷に囲まれたこのターボルの地を軍事拠点として城塞を築き、フス戦争を戦いました。したがってチェコの人びとは、ターボルというと、常に革命を想起するのだとか。

スメタナは、人々を鼓舞したこの歌を、曲の中心に据え、フス教徒の不屈の精神を讃えました。「戦闘のさなかにも讚美歌は聴こえ、信仰を裏切るよりは死を選ぶ彼らの激しさに、敵は恐怖に陥った」といいます。

フス戦争というのは、ヤン・フスによる宗教改革運動とカトリック教会側の戦いです。カレル大学総長も務めた司祭ヤン・フスは、カトリック教会の墮落と腐敗を告発。そのことに激怒したローマ教皇は、彼を異端として、火刑に処します。



1915年フス没後500年の年には、プラハ旧市街広場に、フス像が造られました。

フス派であったボヘミアの人々は立ち上がり、この凄惨な戦争に入っていきます。ローマ教皇側は、度々ボヘミアに十字軍送り、戦いは激化してゆくのです。

夜明けのような静けさで始まった第5曲は、徐々に熱を帯び、フス派の激昂を見せます。彼らの確固たる意志のようにも聴こえます。

戦いの合間、聴こえるコラールは教徒たちの祈り。木管楽器の奏でるコラールです。

戦いは激しさを増し、叫びのような讚美歌から、曲はブラニークに入ります。

ブラニークとは、深い森に覆われた山。この山には、国が危機に陥ったときに、救いに現れる騎士たちが眠っているという伝説があります。この伝説を、スメタナはフス派に置きかえ、「フス派の戦士たちは敗れた後ブラニークに隠れ、国を救うべきときが来るのを待って眠っている」と、第6曲を描きました。

合間に訪れる平安は、ブラニークの周りの風景や、羊飼いの少年が奏でる牧歌を歌います。戦いの最中、束の間の平安はますます、自然の美しさを際立させてます。

再び敵の来襲。新たな讚美歌「汝らの神と共に勝利を収めん」が続きます。そして戦いは終結へ。フス教徒のなかでも急進派と言われたのが片眼の老将軍ヤン・ジシュカ率いる「ターボル派」。彼らの勇猛な戦いにより、ついには度重なる襲撃を撃退し、「新教」を守るのです。(※)

ヴィンセブラドのテーマが、チェコ民族の復興と未来の栄光を讃え、曲を閉じます。



フスの思想に心酔していたヤン・ジシュカは、フス教徒の中に急進的な「ターボル派」をつくり、十字軍を猛撃しました。現在、街の広場はジシュカ広場と呼ばれ、彼の像が建っています。

※曲は明るく終わりますが実際には、カトリックが勝利しています。

地域に日頃の感謝を伝える1年に。



25周年企画第1弾 創立25周年記念第40回定期演奏会



宮前フィルの本拠地、川崎市。多摩市民館は、よく通う場所です。多摩区に感謝を込めて、今日の演奏会を企画しました。

25周年企画第2弾

宮前フィルの誇るべきところは、練習の出席率が高いこと。日曜の朝は練習！これは強制してできるものではありません。団員皆、練習が楽しいから。そして練習が楽しいのは、仲間が揃っているから。そして、先生方がご指導くださるから。

宮前フィルをご指導くださる先生方に感謝の気持ちを込めて、宮前フィル25th Anniversaryコンサートプログラムをつくり、お贈りさせていただきます。

25周年企画第3弾

栃木県那須町 演奏旅行

1998年8月26日、栃木県北部は記録的な大雨に見舞われました。那須町は多数の死傷者を出し、大変な豪雨災害となりました。



翌年1999年、私たちは、那須町で「ぐあんばれ那須町」応援コンサートで演奏するご縁をいただきました。宮前フィルと那須町のお付き合いはここから始まり、以降、3回の演奏会に呼んでいただき、町で公募した合唱団との第九演奏会は特に思い出深いです。

お世話になった那須町に、成長した我々を見ていただきたいと、再び演奏会に伺います。

宮前区で大好評の「おんがくのおもちゃ箱」を7月24日、那須町で開催します。これは、歌っても踊っても、泣いても退席してもOKの、子どものためのコンサート。オーケストラの指揮者を体験できるコーナーも設けています。那須町の子どもたちに音楽の楽しさを伝える演奏会を企画中です。

25周年企画第4弾

創立25周年記念第41回定期演奏会

25周年記念イヤーの最後を締めくくるのは、年の瀬も近い12月4日。ホームタウンである宮前市民館で記念演奏会です。曲は、ドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」。節目に演奏してきた思い出の曲です。

○コンサートマスター
♪パートリーダー
*今回出演しません

演奏者名簿

奏者が“一番好きな曲”を聞いてみました。

Hr

ホルン

ショスタコーヴィチ…
交響曲第5番「革命」3楽章
リスト…伝説より
「水の上を歩くパオラの聖フランチェスコ」

ストラヴィンスキー…フルチネルラ
マラー…交響曲第3番6楽章
ブラームス…交響曲第4番
ドヴォルザーク…交響曲第9番「新世界より」

Cl

クラリネット

メンデルスゾーン…交響曲3番「スコットランド」
ブルッフ…スコットランド幻想曲
シベリウス…交響曲第1番

Fl

フルート

ブラームス…交響曲第4番
チャイコフスキー…交響曲第6番「悲愴」
ブラームス…ピアノ協奏曲1番

Per

パーカッション

ブラームス…交響曲第2番
ハチャトゥリアン…ガイナ
チャイコフスキー…交響曲第4番
ブラームス…交響曲第3番

Tp

トランペット

マラー…交響曲第3番
ドビュッシー…交響詩「海」
マラー…交響曲第5番
ラフマニフ…交響曲第2番
ミスターチルドレン:HANABI

Fg

ファゴット

ブラームス…ハイデルンの主題による変奏曲
シベリウス…ヴァイオリン協奏曲
モーツァルト…歌劇「魔笛」
ラヴェル…グランドブランの墓

Ob

オーボエ

ブラームス…交響曲第1番
チャイコフスキー…交響曲第1番
ブルックナー…交響曲第8番
ドヴォルザーク…交響曲第8番

Tb

トロンボーン

アレクサンダー…カレッジスタートレックのテーマ
サンサーンス…交響曲第3番「オルガン付」
サンサーンス…アルジェリア組曲
マラー…交響曲第3番6楽章
マラー…交響曲第2番「復活」

Btb

バストロンボーン

Tub

チューバ

「ショスタコーヴィチ…ヴァイオリン協奏曲1番」

Hp

ハープ

モーツァルト…レクイエム

1st Vn

第1ヴァイオリン

シエネベルク…浄められた夜
ブラームス…ヴァイオリン協奏曲
ラフマニフ…交響曲第2番
グリーグ…ペールギュント「朝」
モーツァルト…ピアノ協奏曲20番
チャーリー…チャップリン…スマイル
フランク…ヴァイオリンソナタ
ベートーヴェン…交響曲第3番「英雄」
ドビュッシー…月の光
フォーレ…レクイエム
フランク…ヴァイオリンソナタ
ブラームス…交響曲第3番
バッハ…マタイ受難曲
松田聖子…瑠璃色の地球
ベートーヴェン…交響曲第6番「田園」
モーツァルト…レクイエム

2nd Vn

第2ヴァイオリン

エルガー…愛の挨拶
バッハ…ベルのカノン
ブラームス…ピアノ四重奏曲第3番
ブラームス…交響曲第1番
ドビュッシー…小組曲
モーツァルト…交響曲第41番
バッハ…ヴァイオリンコンチェルト

Vla

ヴィオラ

ブラームス…交響曲第4番
ベートーヴェン…交響曲第9番「合唱付」
メンデルスゾーン…交響曲第3番「スコットランド」
シベリウス…交響曲第1番
シルヴェストリ…バック・トゥ・ザ・フューチャー
嵐…ラヴソング

Vc

チェロ

ベートーヴェン…交響曲第6番「田園」
グリーンカ…ルズランとリュドミラ序曲
ブラームス…交響曲第4番
チャイコフスキー…交響曲第5番
ベートーヴェン…交響曲第3番「英雄」
ドヴォルザーク…交響曲第8番
バッハ…無伴奏ヴァイオリンのための
バルティータから「シヤコンヌ」
ラフマニフ…交響曲第2番

Cb

コントラバス

チャイコフスキー…交響曲第1番
ムソルグスキー…組曲「展覧会の絵」
芥川也寸志…トリプティック
リムスキー…コルサコフ…スペイン奇想曲
モーツァルト…交響曲第41番ジュピター
ヴェルディ…レクイエム
ラフマニフ…交響曲第2番
ストラヴィンスキー…オイディプス王

宮前フィルのホームページ
<http://miyamae-phil.jimdo.com/>

宮前フィルのフェイスブック
<https://www.facebook.com/miyamaephil>

編集後記

知れば知るほどわが祖国という曲は面白い、そしてさすがに交響詩、ものすごく描写的な曲だと驚きます。演奏と一緒に映像を流したらまた面白いだろうと思いますが、今日のところは奏者の腕に委ねて、あとはこのプログラムが、情景を思い描く一助となればと思います。(大久保)

宮前フィルハーモニー交響楽団 ●企画・制作…大久保貴子、重松貴子 ●撮影…櫻井将雅 ●デザイン・印刷…八幡印刷株式会社

※なお、本日のパートの配置は写真と一部違ってきます。